ホオズキ栽培管理 No. 2

令 和 8 年 4 月
京築普及指導センター
ＪＡ 福 岡 京 築

★４～５月にすべき管理

1　間引き、脇芽と下葉の除去：草丈の確保、実の充実、病害予防
2　支 柱 立 て 、 誘 引：風による倒伏・曲がり防止
3　か　ん　水　管　理：草丈の確保
4　病　害　虫　防　除：ｱｻﾞﾐｳﾏ、ﾀﾊﾞｺﾉﾐﾊﾑｼ、斑点細菌病、炭疽病等の予防

1　間引き、脇芽と下葉の除去

（１）間引き（横植え）

適切な栽植密度になるように間引く。優先的に間引く株の特徴は以下の２つ。
①茎が細い、葉がちじれる、小さい等の生育不良の株
②斑点細菌病、炭疽病等病害が発生している株

・間引きの目安

	ホオズキ	ミニホオズキ
栽植密度	800～1000 本／a	1700 本／a
株間	15～20cm	10cm

（２）脇芽の除去

茎の伸長と同時に脇芽も伸びてくるため、短いうちに手で折り取る。
→ 脇芽を放置すると養分競合が起き、草丈の伸長不良の原因になる。
また、風通しが悪くなり病害が発生しやすくなる。

（３）下葉かぎ

草丈が 25 ㎝程度になったらマルチに触れる下葉を除去する。
→下葉を放置すると、泥跳ねや風通しが悪くなり、病害発生の原因となる。

○注意点
・脇芽をかぎ取る際、茎の皮が剥けないように注意する。
・脇芽と下葉の除去は傷口がすぐに塞がるように晴天時に行う。
傷口が長く濡れていると細菌病等が侵入しやすい。
・除去した葉は、病害の感染源とならないようにほ場外に持ち出して処分する。

2　支柱立て、誘引

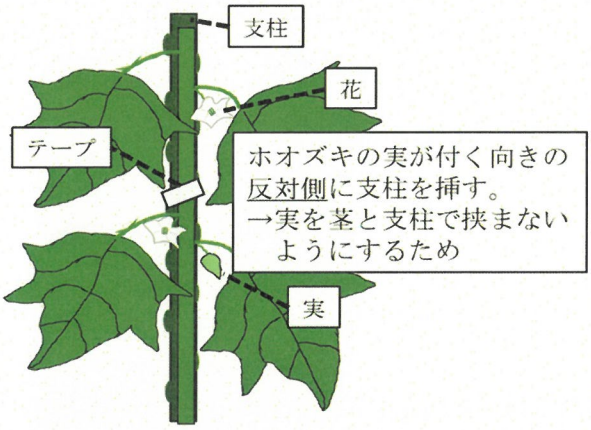
（１）支柱の準備

・支柱（長さ 150 ㎝、太さ 10 ㎜）を使用。
・昨年度の支柱を再利用する場合、地面に挿した部分の泥を丁寧に除き、**資材消毒剤「イチバン」500～1,000 倍液に瞬時浸漬**し、**支柱の消毒**を行う。
※消毒後は、消毒液を風乾させて使用する。

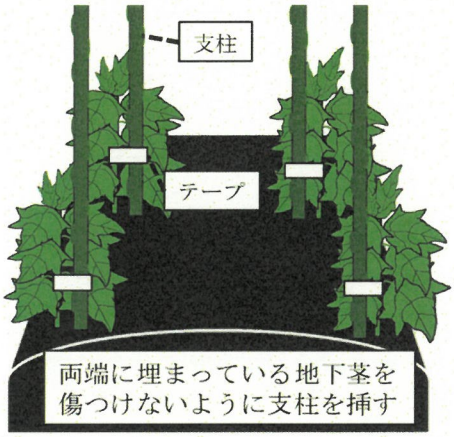
（２）支柱の立て方及び誘引方法

・草丈 25 ㎝程度（５月上中旬）が適期。
・地下茎を傷つけないように支柱を挿す。
・テープナーで支柱と茎を留めて、誘引する。留める間隔は 20～30 ㎝。

●縦植えの場合



●横植えの場合



3　ほ場の水管理

（１）かん水管理

・土壌の乾燥は**草丈の伸長不足**、**根傷みによる白絹病等の病害発生**、**実の奇形**の原因となる。
・株元の土を約３㎝堀り、白く乾いていれば速やかにかん水する。
・動力噴霧器による手かん水、畝間かん水、かん水チューブによるかん水を行う。

●畝間かん水の方法

・早朝から畝間に水を溜め、土表面が湿ったら落水する。
・根が傷むのを防ぐため、午前 10 時までに落水を済ませる。

（２）排水対策

・梅雨入り前に大雨が降ることもあるため、排水対策を早めに実施する。
・排水口の清掃、溝切、畝溝の除草を行い、排水路を確保する。

4　病害虫防除（※令和８年度防除暦を参照）

（１）病害

・斑点細菌病や炭疽病の予防防除に努める。
　昨年は斑点細菌病の発生のほか、軟腐病の発生が点在。

（２）害虫

・**アザミウマ類**に吸汁されると、芯止まりや吸汁痕からの病害感染の可能性がある。
・**タバコノミハムシ**の被害が一昨年から頻発。
　→ 畔の雑草から飛来するため、畔の除草や、畔付近の畝の防除を徹底する。

